

令和6年3月27日

## 令和5年度 学校関係者評価委員会議事録

学校法人 栗原学園

北見情報ビジネス専門学校

学校関係者評価委員会

学校法人栗原学園の学校関係者評価に関する規定に基づき、学校関係者評価委員会を実施しました。下記にその内容を公表いたします。今後も各評価委員からのご意見を真摯に受け止め、より良い教育を目指し学校教職員一同努力して参ります。

1. 開催日時 令和6年3月27日（水）18：00～
2. 場 所 北見情報ビジネス専門学校 4F 402教室
3. 出席者 規程の委員および学校職員
4. 次 第
  - (1) 開会
  - (2) 校長挨拶
  - (3) 協議事項
    - ①学校関係者評価委員会趣旨説明
    - ②学校関係者評価 教職員自己点検による報告
    - ③意見聴取
  - (4) 閉会

学校法人栗原学園 学校関係者評価委員会は令和5年度自己点検・自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下のとおり報告いたします。

1. 学校関係者評価委員

選出区分	氏名	就任時の職名等
企業等委員	近藤 千鶴	株式会社ベストミント 代表取締役社長
企業等委員	由村 公平	株式会社日本旅行北海道 北見支店長
企業等委員	柴田 喜史	社会医療法人恵和会 アメニティー美幌 事務長代理
企業等委員	坂井 浩	株式会社坂井印刷 代表取締役社長
卒業生	野田 貴浩	株式会社タカノ商事 課長

参加者（敬称略） 近藤 千鶴、坂井 浩、野田 貴浩

2. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見

項 目	評 価
	北見情報ビジネス専門学校
基準Ⅰ 教育理念・目標等	<p>・ 2) 社会のニーズ等を踏まえた学園の構想を抱いているか。このことに関して、教育課程編成委員会の実施や企業訪問時に意見を聞き、近郊のニーズに沿った形にしている。</p> <p>・ 委員会より 特に意見なし</p>
基準Ⅱ 学校運営	<p>・ 3) 情報システム等による業務の効率が図られているか。このことに関して、点数は上がったが、新しいものは導入できていない。次年度出欠確認を情報通信科の教員主導でシステム化と、Excel の管理になっているデータの改善をしていきたい。</p> <p>・ 委員会より 特に意見無し</p>

<p>基準Ⅲ 教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1) 学園行事の適切な企画、円滑な運営がなされているか。 このことに関して、外部を入れた学園祭の実施を4年ぶりに行ったが、不備はなく新たな取り組みとして e-sports も実施した。 しかし、必要な話し合いが増え、会議が長時間かかる場合があるため改善していきたい。</li>   <li>・ 4) 関連分野の企業、関連施設等、業界団体等の連携により、教育課程の作成、見直しが行われているか。このことに関して、教育課程編成委員会に関しては、より外部の意見を取り入れたいという考えから分科会を実施して密接なコミュニケーションをとりたい。</li>   <li>・ 委員会より 特に意見無し</li> </ul>
<p>基準Ⅳ 教育成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1) 就職率の向上は図られているか。このことに関して、就職が学生の意欲が高く、ほとんどの学生が動き出している。 選考の早期化も進んでおり、複数回説明会を実施する企業もある。 特に自分で外部の会社説明会に行き、探すことよりも学内で開催される会社説明会を取ってきた企業に行くケースが増えている。 企業を自分で探す方法をカリキュラムに入れるか検討する。 また、情報通信科も北見市内の就職が多くなった。</li>   <li>・ 3) 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか。このことに関して、在校生の社会的な活動としてアルバイト状況は年に1回の身上書記入及び学生とのコミュニケーションの中で把握が出来ているが、卒業生に対しては本校へ採用活動等で来ていただける企業様から教示いただくか、本人から連絡、もしくは来校時に確認する形が多い。</li> </ul>

	<p>・委員会より          地元で学生が就職するというのが、大変ありがたい。          最近では人を採用することが非常に大変で労力がかかる。          (近藤)</p>
<p>基準V          学生支援</p>	<p>・1) 学生相談に関する体制は整備されているか。          このことに関して、教員同士の情報共有によって問題の把握はできているが、対応の時間確保に関しては課題が残っている。          休学率が上昇したことも鑑みて対応が必要。</p> <p>・2) 学生の経済的側面に対する支援は整備されているか。          このことに関して、学校独自の奨学金だけでなく、就学支援制度に対応するため、9月まで学費の納入を待つなど学生に寄り添うよう対応している。          また、修学支援制度の第4区分が適用されるよう、情報通信科を工業分野に変更を実施した。</p> <p>・6) 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。          このことに関して、進化塾の上の施設を次年度新たにPCを購入し、入れ替えた後のPCを使い、PCを使った授業を行える環境を追加で構築する。          また、小さい教室にもエアコンを導入して学生の環境を改善する。</p> <p>・7) 学生が自己理解、自己啓発、自己実現をするための方策が整備されているか。このことに関して、現状の課題であると認識している。          自己分析セミナーを外部に依頼し実施したが、それでも自己分析が苦手な学生が多く、自分自身を過小評価してしまい、強みが出てこないといった結果になってしまう。          次年度に関しては外部の自己診断ツールを導入する予定。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会より</li> </ul> <p>卒業生と交流する場が失われているが、年に一回学園を思い出せる日を作るとより、団結できるのではないか（近藤）</p>
<p>基準VI 教育環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1) 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。このことに関して、教室に設置している机を5台新調している。</li> </ul> <p>その他にも、学内の小教室にもエアコンを導入し、学習環境の整備をした。</p> <p>次年度に関してはPCを新調する予定となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2) 防災に対する体制は整備されているか。このことに関して、学校施設の定期的な点検を行っている。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会より</li> </ul> <p>特に意見無し</p>
<p>基準VII 学生募集</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1) 学生の募集は適切に行われているか。このことに関して、オープンキャンパスで実施するカリキュラムを変更した。</li> </ul> <p>在校生と交流する時間を積極的に作ることに重点を置いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会より</li> </ul> <p>伝書鳩に卒業時のインタビューを受けた学生の記事が掲載されたことは親も安心し、関連企業も認知ができるためよい。</p> <p>また、北見商科高等専修学校より学生が20名入学予定であり、同じ栗原学園の学校同士の連携が高くなり非常に良い。（坂井）</p>

<p>基準Ⅷ 財務</p>	<p>・ 1) 中長期的に学校の財政基盤は安定していると言えるか。このことに関して、卒業生より入学生のほうが多いが、このままいくと少子高齢化等の要因で減っていく可能性を考慮し、高等学校だけでなく、中学校からも積極的な募集を行っていく。</p> <p>・ 委員会より 特に意見無し</p>
<p>基準Ⅸ 法令等の遵守</p>	<p>・ 前年度と同様で、問題なし</p> <p>・ 委員会より 特に意見無し</p>
<p>基準Ⅹ 社会貢献等</p>	<p>・ 1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。このことに関して、北専各連からの依頼により、中学生が体験できるよう様々なものを行っている。また、高等学校からも体験授業の依頼があり、実施している。</p> <p>また、学園全体の話にはなるが CBT 試験の拡充により近郊にて資格取得が可能になるため、地域貢献ができています。</p> <p>・ 2) 学生ボランティア活動を奨励・支援しているか。このことに関して、北見市のカーリングを通じた国際交流などに促し、学生が複数名参加している。</p> <p>・ 委員会より 特に意見無し</p>

### 3. 学校関係者評価 全体的な総括について

自己点検・自己評価報告書を見ての全体的な意見	<p>栗原学園全体で100名ほど卒業するが、70名ほどがオホーツク管内に就職している。</p> <p>前年度の総合事務科はオホーツク管内就職100%となっている。</p> <p>今後については、デジタル人材が必要な時代になっているため次年度からカリキュラムを導入していきたい（土澤）</p> <p>・委員会より</p> <p>1年に一回細かく反省しているため課題も見えており、今後改善していける。</p> <p>4名学生が増えている</p> <p>栗原学園は経済を回している点、将来を担う子供を育てている点から評価が高くなっている。（坂井）</p>
------------------------	--